

ワクチン接種を通じた地域貢献

本学・アライアンスの県立大学をはじめ、県内大学等の関係者へ1月10日までに10万回以上接種

- コロナワクチンの「**大学拠点接種**」をいち早く開始(6/22～)。附属病院の医師・看護師等でチームを編成し、学生・教職員等への接種を実施(東北大・大阪大・広島大・徳島大(6/21開始)の翌日から開始)。
- 「**大学アライアンスやまなし**」の枠組を活用し、**山梨県立大学の学生・教職員への接種を実施**。
- さらに、協力要請があった他の県内大学・専門学校の学生及び教職員への接種を実施。
- 独自の予約システムを整備。
- **県知事からの直々の依頼**により、障害者施設職員・山梨県トラック協会関係者等への接種も実施。
- 附属学校園(12歳以上)や県内の高校生(1～3年)に接種を実施
- 島田眞路学長は「**地域のために本学のリソースを最大限活用する**」と、地域貢献の意義を強調。



接種を受ける職員

➡外部からの協力依頼に対し日程等を即断。スピーディーに実施。

山梨大学ワクチン接種率
学生:90.1% ・ 教職員:90.9%

10月4日から全面的な対面授業に切り替え

コロナ感染者数(人)		
月日	学生	教職員
R2.11	1	3
12	3	
R3. 1	2	
2		
3	1	1
4	10	
5	8	
6	10	1
7	4	1
8	4	
9		
10	1	
11		
12	1	
R4. 1	1	
合計	46	6



学長らが連日状況を確認



接種後に待機する学生

職域接種等の状況(延べ人数)

山梨大学会場		大規模接種等	
学生・教職員・家族	13,800	医療従事者接種	7,820
山梨大学附属学校園	630	山梨県大規模接種	11,675
高校1～3年生	6,000	中央市集団接種	8,987
英和大学	1,200	都留市集団接種	2,932
山梨学院大学	800	若者接種センター(イオンモール)	709
身延山大学	170	医療従事者接種3回目(12/1～) 2,651	
障害者施設職員	4,800	県立博物館等	182
各種専門学校(14校)	1,800	山梨県立大学会場	
甲府商工会議所・山梨県機械電子工業会・山梨県弁護士会・山梨県トラック協会・ヴァンフォーレ甲府・山梨県旅館ホテル同業組合・甲府市保育連合会・電気工事工業組合・東京電力等	22,629	山梨県立大学	2,600
		山梨学院短期大学	3,500
		都留文科大学会場	
		都留文科大学	2,940
山梨県若者接種等	4,400	合計	100,225

10月4日、職域接種および医療強化型宿泊療養施設の運営実績について記者会見で報告。

附属病院におけるコロナ対応

医療強化型宿泊療養施設の運営

山梨県からの要請に応え、8月24日(火)から新型コロナウイルス感染症の軽症や無症状の患者向けの「医療強化型宿泊療養施設」として運用を開始している「東横INN富士河口湖大橋」に加え、8月31日(火)から中央市の「ホテルルートイン山梨中央」に医師や看護師らを常駐させ、24時間体制で運営。両療養施設では、常駐する医師が患者の症状に応じて点滴や酸素吸入、投薬などの医療措置を行うほか、看護師が健康観察など患者のケアに当たっている。

入所者数(2021年10月時点 延べ数)

- ・東横イン富士河口湖大橋 2,210名
- ・ルートイン山梨中央 1,720名

再開後(2022年1月12日現在)

- ・東横イン富士河口湖大橋 7名入所予定
- ・ルートイン山梨中央 36名入所



食事配布場所



医療強化型宿泊療養施設の個室



診察室

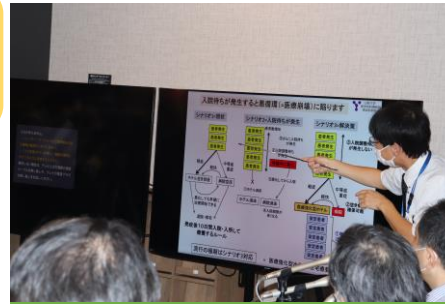
『SHINGEN (Smart Health INformation Gathering & Evaluation Network)』を開発

カクテル療法(9月3日～)

- ・東横イン富士河口湖大橋 18名
- ・ルートイン山梨中央 73名



SHINGENシステムの説明



SHINGENシステムの説明

退所ケア(9月3日～)
66名

『SHINGEN(Smart Health INformation Gathering & Evaluation Network)』は、患者自身がスマートフォンから症状などを入力し、医療従事者らが一元管理するもので、患者の症状管理の効率化や健康観察の質の向上が図れ、医療体制の強化に繋げる。24時間体制で医師や看護師を常駐させ新型コロナウイルス感染症患者のケアを行う「医療強化型宿泊療養施設」において『SHINGEN』を導入しており、常駐する医師や看護師の他、本学附属病院の医師もPCやスマートフォンで情報を一括管理・共有している。また退所後も、システムによる継続的な健康状態の管理を行うとしており、容体の変化に即時に対応できる体制を整えている。

附属病院におけるコロナ対応

コロナ患者・ダイヤモンドプリンセス号乗客患者の受入

- ・ 国大協(R2/1/29)においていち早く警鐘を鳴らし、早速、患者受入の机上訓練をR2/1/31に実施。
- ・ ダイヤモンドプリンセス号の乗客患者をR2/2/19に1名受入、以降、3月までに計7名を受入。
- ・ 附属病院では、人工心肺装置ECMO最大3台稼働などにより、入院患者176名を受入(10/11時点)
- ・ 本年11名を受入(1/11時点)

机上訓練の様子



山梨県初・ドライブスルー方式によるPCR検査体制を確立

- ・ 山梨県からの要請に基づき、ドライブスルー方式によるPCR検査をR2年5月から附属病院の敷地内で開始(週に2回・1日最大72件の検査可能)。
- ・ 検体採取から解析まで、全て附属病院で実施。ドライブスルー方式による検査件数は約1,620件、PCR検査全体の件数は約28,000件(9/30時点)。

検査の様子



ドライブスルーPCR検査シミュレーションの様子



国立大学病院で初となる大阪府や沖縄県への看護師派遣

- ・ 附属病院では、文部科学省からの派遣要請に応え、医療の逼迫が深刻な大阪府へ看護師(集中治療部)をいち早く(依頼を受けた2日後の4/19には)派遣。「大阪コロナ重症センター」と「関西医科大学総合医療センター」で治療に従事。
- ・ 医療の逼迫が深刻な沖縄県にも、看護師(病院長特別補佐等)を派遣。
- ・ これまで継続して、大阪府に12名、沖縄県に2名を派遣(4/19~6/28)。
- ・ 派遣時の壮行会・引き継ぎのための報告会を実施。全ての会に学長、病院長が参加。



山本看護師(右)を激励する島田学長

髄膜炎症例の本邦初の発見など大きな研究成果

- ・ 新型コロナウイルス感染症により髄膜炎を発症して附属病院に入院した患者の症例報告論文を国際ジャーナルに発表(最終著者:島田眞路学長)。新型コロナウイルスが肺炎だけでなく髄膜炎も起こすことを世界で初めて報告した論文となり、我が国トップクラスの被引用数(R3年7月時点で600以上、本邦2番目)。
- ・ 附属病院に心肺停止で搬送された乳児の感染をいち早く特定し、乳児であっても新型コロナウイルスによって心肺停止を引き起こすことを英文雑誌に発表。

精度の高いPCR検査体制の増強と入院前検査の徹底

- PCR検査機器「GeneXpert」（2020.10/6）、「Film Array」（2021.2/1・24時間検査応需）
「ロシュコバスZ480」2台を相次いで増強し、**精度の高い検査体制を構築**。
- 入院患者等に対するPCR検査件数は、約28,000件実施（9月末時点、ドライブスルー含む）

オンライン面会体制の構築と直接面会者へのPCR検査の徹底

- 2020.3/1～原則、**面会禁止を実施**し、やむを得ない面会者に対して**事前のPCR検査実施を徹底**。
- タブレットを用いた**オンライン面会の仕組みを構築し運用開始（2021.7）**

コロナ専用病棟拡大と一般病棟の稼働率向上

- 休止病棟の活用（～2020.9）と新病棟コロナ専用病棟開設（2020.10～）**
- 山梨県の要請に基づき、第5波の感染拡大局面にコロナ専用病棟を増床し合計**2病棟（60床（ICU10床含む））**まで拡大。他方、病棟看護師長の連絡会（通称、Seventeens）を設け、**一般病床の稼働率を引き上げ**（2021.3 89.8%→2021.9 95.5%）。手術部門も制限なくフル稼働。

帰国者・接触者外来（発熱外来）の開設と運用

- 山梨県の要請に基づき、**帰国者・接触者外来**を内科系医師が中心となり運用中

